

# DEBUT 首長

高知県香南市長 清藤 真司氏

## 市民自ら参画する市政へ 地場産業の外商戦略を確立



きょう・まさし 1965年高知県香南市生まれ。89年立命館大卒、証券会社勤務後、95年から国会議員秘書。2003年に夜須町長に就任。06年に5町村合併に伴い夜須町長退任。高知県議を経て12年7月に香南市長に初当選。妻と長男、長女の4人暮らし。サウナと読書が好き。東野圭吾の全作品を読破した。47歳。

**香南市** 2006年に5町村合併で誕生。高知市の東20kmに位置し、太平洋に面する。人口3万4000人。ニラやフルーツマトの栽培が盛ん。

### ——住民自治の確立を市政の柱に掲げている。

住民自治の確立とは、市の施策を決定するプロセスに多くの市民の意見や要望が入るということだ。自分たちの住む地域は自分たちでつくるという住民の思いを行政が支援をしていくのが住民自治の形だと思う。合併して7年目で香南市という名前は浸透してきたが、エリアが広くなり市役所と市民との距離を感じる。まずは、その距離を縮めていくことが、どの施策を進めるにしても基本になる。

市政の動きが市民に伝わるように10月から地区懇談会を始めた。とりあえず11月中旬まで市内23カ所で開催するが、地区懇談会を通年で開催していく。最初は私の基本姿勢を説明することが中心になるが、今後は具体的なテーマを絞っていきたい。行政諸般報告の出前開催

もする。市に対して様々な提言が出てくることが理想だ。

### ——選挙では地場産業の振興を訴えた。

香南市は野菜の促成栽培とハウス栽培が盛んで、特にミカンとニラは高知県下での有数の生産量を誇る。フルーツマトやエメラルドメロン、スイカも全国に出荷している。農林水産業を基軸に、生産から加工、販売までのすべての工程を一貫して行うことができる地域独自のシステムを官民協同で作りたい。それが地場産業を育てていくことにつながる。産業別の生産額、販売額の目標を設定して、地産外商戦略を確立したい。

来年秋には高知県と共同で造成中の工業団地も完成する。津波を想定して高台へ分散移転を検討する企業も多く、県内外から引き合いは多い。観光では、閉鎖中の遊園地跡に民間主導で漫画をテーマにしたミュージアム的な観光拠点をつくる計画も動き出している。3～4年先には実現させたい。

——南海地震対策も急務だ。  
津波からの被害を受けないた

めに、沿岸部からの高台移転を進めるべきだと考えている。県が国に政策提言している「ツイン区画整理事業」と「立体換地」を柱に進めたい。ツイン区画整理事業は高台と沿岸部の2カ所で同時に区画整理するもの。立体換地は、例えば低地の30軒が合意すれば、その土地にビルを建て、1～2階は駐車場、3階が店舗、4階以上を居住地にするというものだ。津波避難タワーも2013年度まで15～20基を急いで建設する。津波避難対策のワークショップを開催し、地域住民に避難タワーの立地場所などを決めてもらう。

政治は生活、行政は人生支援というのが私のモットーだ。市民一人ひとりの人生を支援していくために、年金や相続税の専門窓口を開設する。就職活動や生活保護対象者に対するキャリアカウンセラーも設置する計画だ。(聞き手は

高知支局 岡本 憲明)